

2023年 7月24日 制定
2023年11月30日 改定

D X 推進企業への挑戦

上北建設株式会社DX戦略



上北建設株式会社

－経営者のメッセージ－

1. DX推進の背景

- 近年、当社を取り巻く外部環境は、これまでにない勢いで刻一刻と変化しており、具体的には「大型土木案件の減少」「建築脱炭素建材シフト」「慢性的な労働力・人材不足」「BIM・CIM等のデジタルシフト」等々、厳しい現状、課題が山積である。
- これらの変化へ柔軟に対応していく為には、既存ビジネスの強みと弱み、機会と脅威を把握・分析した上で、合理的ではない企業文化・風土は躊躇なく変革し、未来を見据えた経営戦略を再構築する必要がある。

令和5年 7月24日 代表取締役社長 田島 一史

－経営者のメッセージ－

2. 企業経営の方向性

- デジタル技術は、建設業界でも急速に普及している。特に、建設プロセスの自動化や効率化、デザインや計画の改善、施工管理の効率化などに関して、デジタル技術が大きな影響を与えている。これらの技術を活用することで、建設会社は大幅なコスト削減やスピードアップを実現できるようになりまた、デジタル技術を活用することで、建設会社は顧客満足度を高めることが可能と考えている。

3. 情報処理技術活用の方向性

- 地方の建設会社がデジタル技術を導入する際には、十分な計画と財務上の見通しを持って、戦略的な投資を行う必要がある。また、地方という特殊な環境下でデジタル技術を効果的に活用するためには、地域のニーズや文化、環境に合わせたサービスを提供することが不可欠と考える。地方の建設会社は、地域密着型のビジネスモデルを作り上げることで、競争力を高めることができると考えている。

令和5年 7月24日 上北建設(株) 代表取締役社長 田島 一史

－上北建設「DX戦略」について－

4. 経営理念

人からありがとうと言われる仕事をし、
人にありがとうと言える人材を育てる

デジタル技術を使いこなすのも、仕事を遂行するのも、人間である
やはり人間(働き手)が中心となり、感謝されるような誇れるような仕事をする

5. ビジョン (目的)

かみきたを拠り所とし、
地域と共に人を育て技術を磨く

地元の会社であることにプライドを持ち、地域の一番を目指しながら、
技術や人材育成で恩返しをおこない、地域貢献・共存共栄を図っていく

ー 上北建設「DX戦略」についてー

6. 戦略目標（「ビジョン」の技術・人材・地域をテーマに）

- ① 社内データを共有し、重複作業を減少
 - ② ICT及びBIM技術の内製化を実現
 - ③ 技術力を活かした産学官連携研究・製品開発などを創出
- } **技術**
- ④ 技術を支える人材確保
 - ⑤ 職員育成プログラムの作成（新入社員含む）
- } **人材**
- ⑥ SNS・HP強化で広く企業の魅力や取組みを発信
- } **地域**

－ 上北建設「DX戦略」について－

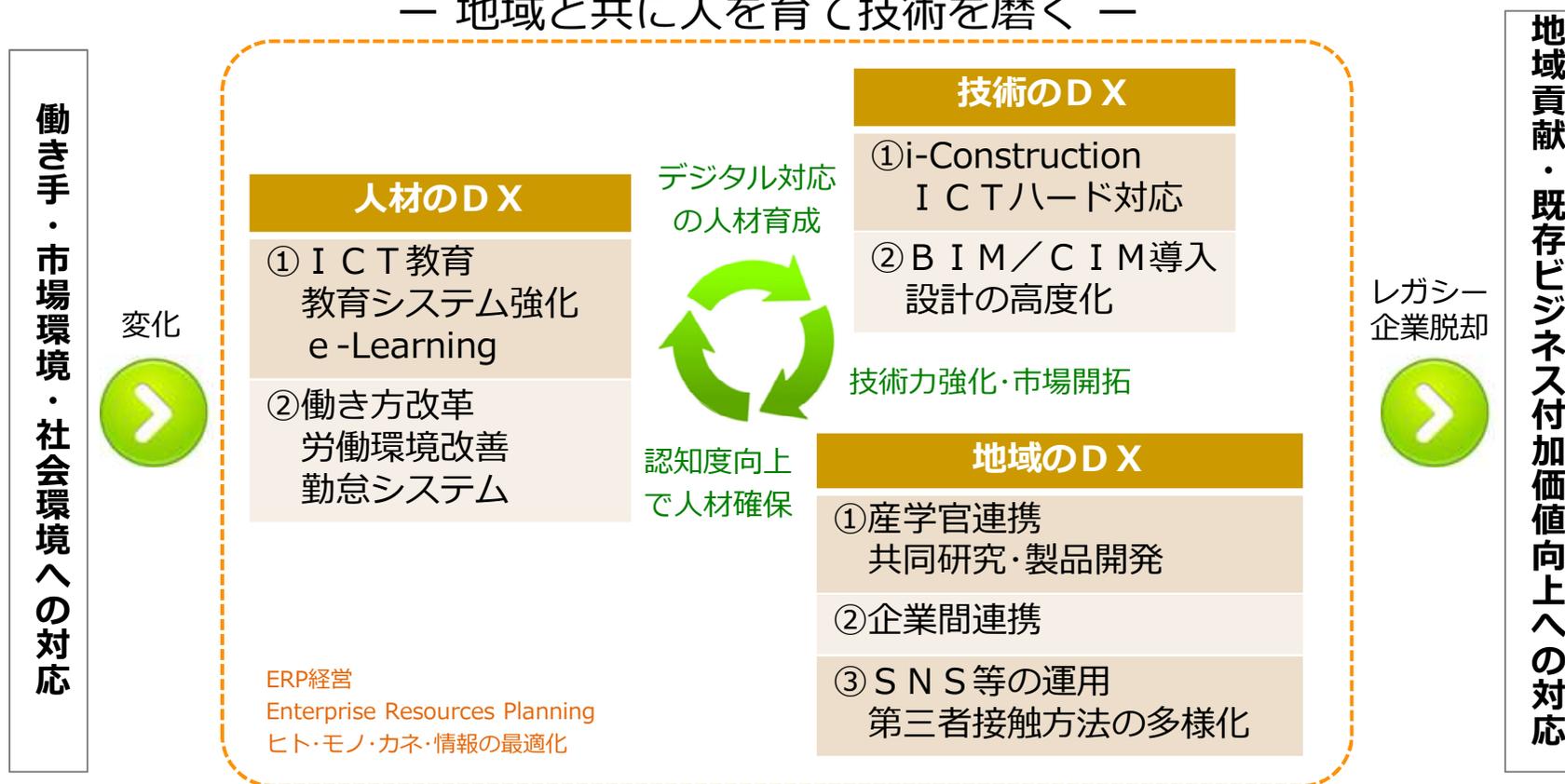
6-1. 戦略目標「技術」に関するアクションプラン（行動計画）

	①社内データを共有し重複作業を減少	②ICT及びBIM技術の内製化を実現		③技術力を活かした産学官連携研究・製品開発などを創出
重要成功要因	業務の横断化促進	BIMの内製化	ICTの内製化	コンクリート技術・ものづくりの研究開発報告
令和5年度 (1年目)	各部の業務抽出	立案計画（ハード・ソフトの選定購入）	ソフト購入・専属スタッフ募集・一部運用	1) コンクリート施工の良否がおよぼす劣化要因の研究その他報告会 2) 高速用簡易ハンプ製品報告会
令和6年度 (2年目)	業務改善促進計画作成・運用	操作技術等の習得・運用	スタッフの教育・研修・一部運用	1) コンクリート品質・耐久性確保の研究(1期目)その他報告会 2) 新商品開発の立案・検討
令和7年度 (3年目)	運用	運用（内製化）	運用（内製化）	1) 東北地方構造物劣化調査研究(2期目)その他報告会 2) 新商品開発の検討
令和8年度 (4年目)	運用	運用（内製化）	運用（内製化）	1) コンクリート品質・耐久性確保の研究(2期目)その他報告会 2) 新商品開発の検討
令和9年度 (5年目)	運用	運用（内製化）	運用（内製化）	産学官連携研究および商品開発の報告
担当者	土木部3名、建築部4名、営業部1名、総務部4名	建築部4名	土木部1名	土木部2名、営業部1名
プロセスKPI	1年目、改善5項目の抽出・運用 2年目、改善3項目の抽出・運用 3年目、改善2項目の抽出・運用	BIM操作対応技術者を毎年1名育成	ICT関連外注委託費(ドロー測量除く)を2年目から毎年25%の削減	1) コンクリート技術等研究成果報告書発行を2年に1件（平均） 2) 新商品等売上が事業全体の「5%/年」以上
ゴールKGI	全10項目を3年以内に運用し重複作業を0件とする	BIM操作対応技術者を5年目で5名育成	ICT関連外注委託費(ドロー測量除く)を6年目で0%	1) コンクリート技術等研究成果報告書発行を5年後に3件以上 2) 新商品5年後売上が事業全体の25%以上

－ 上北建設「DX戦略」について－

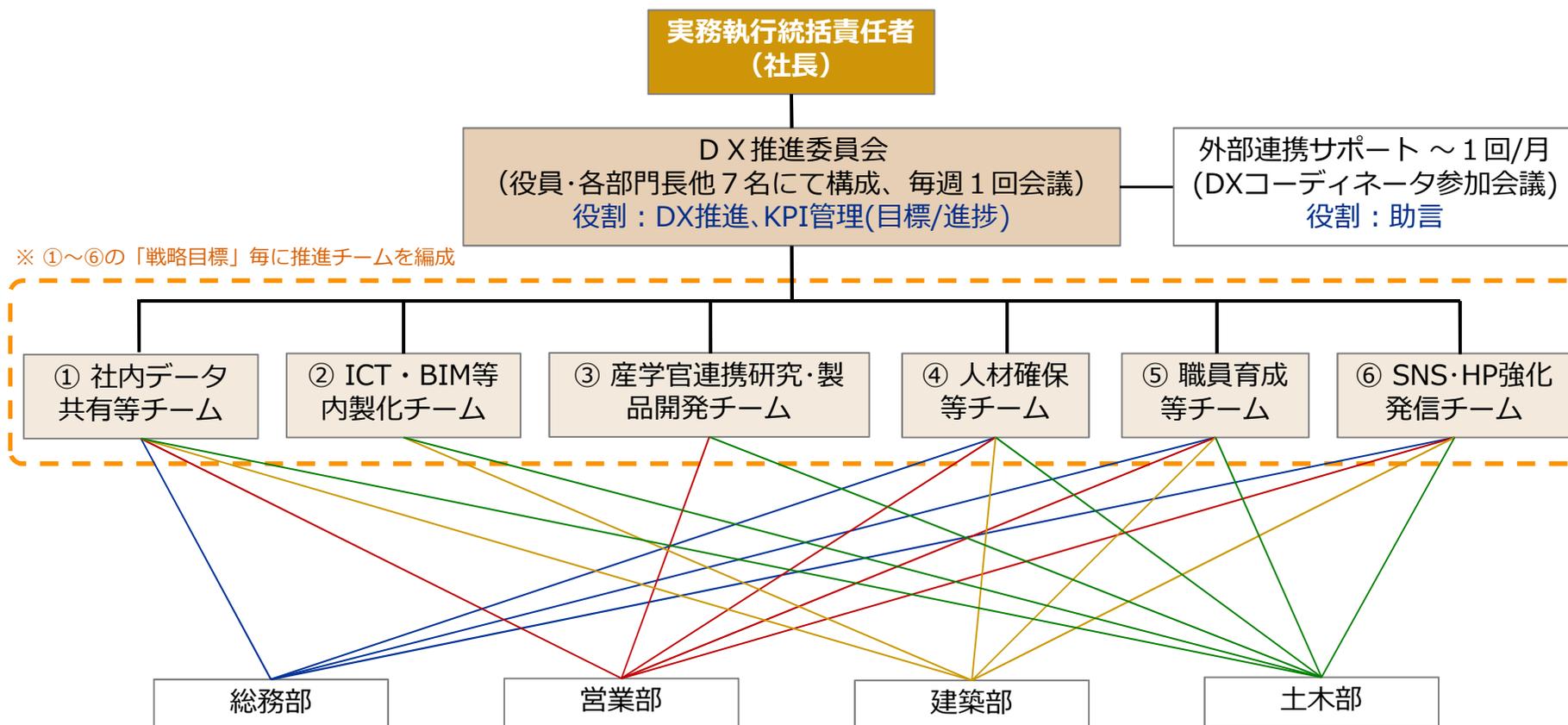
7. DXイメージ図（デジタル技術データ活用部分のみ抜粋）

－ 地域と共に人を育て技術を磨く －



－上北建設「DX戦略」について－

8. DX推進体制



－ 上北建設「DX戦略」について－

9. データ・デジタル技術を活用するための環境整備

施工現場における、**レガシーシステムの刷新と攻めのIT**を推進するため、以下の環境整備等を実施する。

対象部署	ICT施工やBIM等でのデータ・デジタル技術対応	
	現状	環境整備による対応
工事部門 (土木部・建築部)	<ul style="list-style-type: none">現場担当者単位での技術集積で、ノウハウ等が社内共有されていない現場での人材不足等から、データ・デジタル技術(ICT施工)の大半を外注委託で対応	<ul style="list-style-type: none">ソフト面では、ICT施工やBIM/CIMへ自社対応する為、専門チームと専属者を配置・育成し内製化を図るハード面では最新技術による測量器械関係や施工システム機械などを予算計上前述ハード面に掛かる費用の内、約1,250万円はものづくり補助金を活用(令和5年10月30日付、DX枠にて交付決定済～15次締切)

－ 上北建設「DX戦略」について－

10. 実務執行統括責任者による効果的な

戦略の推進等を図る為に必要な情報発信

2022年10月より、既存のビジネスモデルを根本から見直すため社内のDX戦略に着手し、取り組み計画や体制などの準備作業を実施。今年6月には、当社にとって急務と考える課題を分析抽出し、6つの戦略目標を定め、全社員へ周知を行い「DX推進キックオフ宣言」を実施しました。

中でもデータ・デジタル技術を活用した「ICT施工やBIM/CIM技術」については、人材確保・育成教育・補助金による機材購入など、戦略計画に沿って順調に遂行している状況です。また、その他の戦略目標についても、各部署の担当者から構成されるチームメンバーにより、実施に向けたアクションプランや具体的な細部にわたった改善手段等、運用に向けての準備を進めております。

経済産業省DXレポート2では「DXの推進に向けては、経営層、事業部門、IT部門が対話を通じて同じ視点を共有し、協働してビジネス変革に向けたコンセプトを描いていく必要がある」と述べられており、この点を特に留意し、DXを推進しております。

令和5年11月30日 上北建設株式会社
代表取締役社長 田島 一史

※ 以降、「社内広報(2カ月/回発行)」にて半年に1回程度のペースで、DX戦略の進捗状況や課題・今後の方向性等について情報発信。

ー 上北建設「DX戦略」についてー

1 1. サイバーセキュリティに関する対策と実施

情報セキュリティへの取組み宣言（2023.11.2付）

SECURITY ACTION 制度

（IPA 情報処理推進機構）

★★ 「二つ星」を宣言しました（2023.11.02）

自己宣言 ID 番号：40102637245

【参考】当社の「情報セキュリティ基本方針」外部公開について(2023.10.31制定)

公開場所：会社HPトップページ、最下段（フッター）右側

「情報セキュリティ基本方針」 <http://kamikita.co.jp/security/>